

ワクチン接種に行ってきました 不安残るワクチン接種

6月10日に自治体から接種券が届き、どうするか家族と相談をしました。まず、接種するのかわからないのかから話をし、家族全員が受けるとなりました。受けるなら、地元、羽曳野市で受けるか、国がおこなっている自衛隊大阪大規模接種センターで受けるかで話をしました。

地元の医療機関で接種なら、ワクチンは「ファイザー社製」となり、大規模接種センターで受けるなら「モデルナ社製」になるため、ネットで調べたり、知り合いなどに聞いたりして検討した結果、大規模接種センターで接種できるモデルナ社製の方が安心との情報なので、大規模接種センターで6月16日に申し込みを行い、1回目を6月23日に接種しました。

1回目の接種

当日、午後1時頃に接種し、3時頃帰宅し、ゆっくりして横になっていたら、腕に違和感があり、時間がたつにつれて接種した上腕部が、だんだん痛くなり、丸1日痛みが続きましたが、現在は痛みもとれて支障はありません。

（配偶者）嫁と長女は次の日に痛みがでて、2日程で痛みはとれたみたいですが、接種1週間後もかゆい症状と接種箇所が赤く腫れている状況が続いています。（7月10日現在）原因を調べたところ女性ホルモンの関係かと思われるとのことでした。



2回目の接種

2回目の接種を7月24日土曜日に（大阪大規模接種センター）しました。前回同様、接種3時間後に上腕部に違和感があり、だんだん痛くなりました。翌日も上腕部は痛く、ダルさ、若干、頭痛もでてきました。

日曜日、丸1日、頭痛薬を飲んでゆっくり休んだところ、月曜日の朝には上腕部の痛さ、ダルさ、頭痛もなくなりました。

副反応は1回目の接種より、2回目の接種の方

がキツイとされています。1回目の接種で新型コロナウイルスのスパイクたんぱく質に対する抗体ができ、そして2回目の接種時には、すでにこれらの抗体等が誘導されていることから、接種されたmRNAを基に体内で1回目と同じスパイクたんぱく質が作られると、1回目より強い免疫応答が起こり、発熱や倦怠感などの副反応がより出やすくなるとされています。

今回ワクチン接種して、発表された結果を見る限り、ワクチンの有効率が高いことは間違いないと思いますが、安全かどうかを確認するにはまだ時間がかかります。安全性は確認されていませんが、有効率が高いので、自分への感染、家族、社会への拡大は接種したことにより、若干ではありますが防げたのかと思います。

接種は努力義務であり、接種しない自由もある

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために、政府もワクチンの確保、接種に向けた計画をたてています。しかし、国民の中にはワクチン接種を希望しない人もいます。

今後、接種が増大する中、さまざまな事情により接種を希望しない人に対して非難したり、差別的な扱いや不利益が生じたりする可能性もありえます。

例えば、飲食店、映画館とかで入場拒否されたりしないか？菅政権は接種を後押しするために、現在停止中の「Go Toキャンペーン」を利用する際の条件としてワクチン接種を位置付ける可能性もありえます。

新型コロナ担当大臣は、6月29日に「Go To再開時にワクチン接種済みか、検査による陰性証明を求めることを検討している」とも述べています。

また、接種を終えた人に、より多くのポイントを与えたり、接種済みの人を対象にホテルの宿泊料金を割引する・飲食店の料金を値引きするなど、ワクチン接種者のみを優遇することはあってはならないと思います。もし、ワクチン接種者のみを優遇することがおこなわれた場合「差別」という意見も出てくると思います。

防ごうワクチンハラスメント

接種を望んでも、さまざまな事情、体質、持病などの理由で、接種を受けることができない人も多くいます。

ワクチン接種は強制ではなく、本人の意思に基づき実施されるものです。ワクチン接種が前提で考えるのではなく、できない人もいることを理解しておくことは必要です。打てない人や打たない人への差別・偏見・嫌がらせは許せません。

（執行部 竹山）



中村医師の意志を引き継ぐために

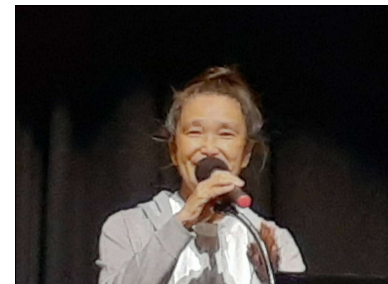
副委員長 陣内恒治

未完の事業を受け継ぐために

今年1月に予定していた「とめよう！戦争への道 めざそう！アジアの平和2021関西のつどい」を、7月11日にエルおおさかで開催しました。

集会は約500名が参加し、大阪支部、岡田大執行委員が司会を務めました。

講師の藤田千代子さん（ペシヤワールの会 支援室室長）は、2019年12月4日に武装集団に銃撃されて死亡した中村哲さんから「イスラム教では女性が異性に肌を見せない文化があり、女性患者のケアに当たるスタッフが必要」として現地に派遣されました。



ハンセン病患者が1地区で7千人の患者がいると言われ、治療ができる医師は中村さんを含めて3人しかいなく、医療器具も不十分な環境下で、病院は常に患者であふれていました。

2000年に大干ばつに襲われると、中村さんは「薬より水が必要」と考え、医療活動の枠を超えて、井戸掘りや用水路建設に軸足を移したのです。

藤田さんは「アフガニスタンはいつまで支援しなければいけないのか、自給自足ができればたくさんの命が救えると中村さんは率先して重機も操作し、用水路を建設し、約1万6500ヘクタールの砂漠を潤して、緑を回復させ、約65万人の生活を支えるようになったのです。



今年は新型コロナウイルスに現地スタッフが感染したり、水害で用水路が被災したりと、何度も障害を乗り越え、難しい判断を迫られるたびに、先生ならきっとこうするだろうと、スタッフは今も奮闘しています。平和につながるヒントにしてください」と話されました。

また、特別講演として西谷文和さん（イラクの子どもを救う会代表）は、現地で出会った中

村さんのことを語ってくれました。



西谷文和さん（イラクの子どもを救う会代表）

中村さんの目標

中村さんが亡くなったあと、世界の報道が取り上げ、知らなかった人たちにも中村さんの功績とアフガニスタンの現状が伝わったと思います。

平和につながるヒントとはなにか、私は真っ先に日本国内でも見て見ぬふりをしていることがあると思いました。沖縄の問題、福島原発の問題、岩国、横田、コロナ禍で失業する人々、少子化問題、高齢者の負担増、一人ひとりの受け取り方は違うでしょう。でも、間違っていることは「おかしい」と声と上げないといけません。

中村さんは生前、講演で「平和目的かわかりませんが、困っている人がいれば救うのが当たり前じゃないのですか」と言われていました。